# 令和４年度　第１回豊田市文化芸術振興委員会　会議録

〇日時
　令和４年１０月２７日（木）　午前１０時～１２時

〇場所
　豊田市コンサートホール多目的ルーム（豊田参合館９階）ほか

〇出席者
　（委員）※敬称略
・高北幸矢（委員長）、高橋秀治（副委員長）、石黒秀和、伊丹靖夫、磯村美沙希、鈴木利恵、中佳子
　（事務局）
・生涯活躍部｜南部長、加藤副部長
・文化振興課｜安倍課長、太田副課長、大西担当長、西村担当長、志村主査
・文化財課｜児玉課長
・美術館｜塚田副主幹

〇傍聴者
　なし

〇要旨
　南部長あいさつ
　昨年度は第２次豊田市文化芸術振興計画の中間見直しを行い、特に子どもの鑑賞・体験機会を増やしていくことを加えた。今後取組を進めていきたい。今回は、とよたまちなか芸術祭 2022 と博物館開館に向けた文化ゾーン整備について実際に現場を見ていただきながら、説明させていただく。今回から新たに３名の方が委員に加わった。いずれの議題も委員の皆様から忌憚ない意見を伺いたい。

**議題１**
**市民アートプロジェクト推進事業について【資料２】**

高北委員
・なんでもないロビー空間に展示して、市民との出会いの場を創出することは素晴らしい。
・鑑賞者、作品の危険を伴うものがあり、その配慮が欠けている。事故があった場合、展示そのものが否定されてしまう。
・展示作品それぞれに作者名、作品タイトル、制作意図（作家の判断）が基本必要。作品と鑑賞者のコミュニケーションは、まちなか展示という特殊な状況では特に求められる。

伊丹委員
・作品を観て「これはどんな意図か」と各自が考え、思うことが、アートの良いところである。

石黒委員
・まちなか店舗会場がもう少し多いと良かった気がする。そのためか、まち全体で盛り上げている感が少し欠けていた。
・特別企画や連携企画の位置付けが分かりにくかったため、結果、芸術祭の全体像も分かりづらくなった。
・「知の技術」というテーマを設けたのは良かった。参合館に多くの展示を集約させたことに賛否があるかと思ったが、知の集積場である図書館に展示を集約させたと説明を受け、テーマに即しており納得がいった。
・サポーターやファンなどの人材が不足していた。
・イベントやワークショップが初日に集約された感があるので、出来れば期間中の土日は常になんらかのイベントがあっても良い。
・県外の若い作家の公募もあったと聞き、今後の継続の必要性と特に若い作家への挑戦や発表の場としての芸術祭の意義も感じた。
・こうしたイベントは 10 年はやらないとまちの文化にはならないと感じる。

磯村委員
・美術館や画廊・ギャラリーなどの施設からアートがまちに飛び出して、人々の目にふれる場所にあるというのは大変嬉しい。普段芸術から遠い位置にいると感じている人々がアートを身近に感じられる、一つの大きな経験となり得るよい機会と捉えた。
・全体的なテーマに一貫性がなく、ただ並べた感は否めない所もあるので、回を重ねるごとにその年の共通のテーマ性のようなものが見えてくると、より面白いのではと感じた。
・作家のワークショップを通じた作品は、今回のこの時・この場でしか創れない、見られない限定感が素敵に感じられた。
・滞在制作やワークショップなど、豊田のまちなかでしか創れない作品が増えていくとよい。

鈴木委員
・多くのアーティストの方たちが、それぞれの思いをもって参加し、作品を展示してあることを説明で知り、より作品への興味がわき、楽しめた。
・こうしたアーティストの作品の発表の場をつくっていることは素晴らしい。しかし、それが観る側にあまり伝わっていないことが残念。事業の情宣や作品の作者やテーマ等の表示などがあるといい。
・通った人が、ふと足をとめたくなる工夫があるといい。

中委員
・エレベーター前や、ちょっとしたスペースにさり気なく作品を飾るというよりは構えることなく自然にそこにただ置くというスタイルが、意外にもマッチしていると感じた。
・日常の中で目にするアートの新たなかたちで、多くの通りすがりの人の目にとまることで、作品の発信力が高まり、作品も身近な存在となる。市内中心部の雰囲気も温かみが増え、アート性が高まる。
・高校生や市外・県外のアーティスト作品もある所が特によかった。

**議題２**
**博物館開館に向けた文化ゾーンの整備について【資料 3】**

高北委員
・枝下用水のフェンスについて、色変更だけでも大きなプラスになるが、フェンスデザインも変えることが必要。色は黒がよいと思う。水辺は大きな景観の要素になる。

伊丹委員
・豊田市は合併した。（仮称）豊田市博物館が出来た後、合併地域の博物館はどうなるのか。地域の博物館が扱った方がいいテーマは、地域の博物館でやるべき。あまり集約をしすぎない方がよい。
・文化ゾーンの管理はどこがやるのか。文化ゾーンとして管理、運営していく必要があると思う。保全含め、エリア一帯を統一的に管理する部署の設置が望ましい。
・使いやすさだけを求めるのではなく、景観が美しい場所を作っていってほしい。
・博物館を含めた文化ゾーンを、継続的に発展させていくには長期的な覚悟が必要。

石黒委員
・現地を見ながらの説明は資料だけでは分からない情報が伝わり大変よかった。
・交流広場は、地域住民の理解を得ながら、実際に実験的な活用を通して、活用方法や整備の内容を決めていくという方向性で良い。
・小さな飲食店や店舗、キッチンカーなどが文化ゾーンに点在できる環境づくりはぜひ行ってほしい。また、若者が新しく挑戦できる場にもしてほしい。

磯村委員
・みんなでつくりつづける博物館というコンセプトが素晴らしいと感じた。
・市民文化会館で素敵なものを鑑賞した後に、ビルや住宅などの現実的な施設が目に入るのは興ざめするので、枝下緑道の存在が素晴らしいと思っていた。今後もこの自然のある風景が素敵に残されるとよい。
・交流広場も、できる限り緑をふんだんに残してほしい。ハイハイの赤ちゃんには、芝生やクローバーが敷き詰められた場所がありがたい。トイレと水場と焚き火のできる場所があれば、自然と遊べる場所になる。ドラえもんの空き地のように草

っ原と土管が置いてあるだけでもよい。大きな木か屋根があれば夏場でも集える。
・小さな子を連れた親子が集える場は、おのずと人々が安心して過ごせる場になる。管理的な安全よりも、心理的な安全の場となってほしい。
・周辺住民のしたいことを叶える場でもあってほしい。

鈴木委員
・博物館開館をきっかけに文化ゾーンを整備するという大きなプロジェクトを進めていることを知った。きれいであること（見た目、衛生面など）、安全であること（親子が安心して過ごせるなど）、そこからの景観がよいことなどを期待する。

中委員
・美術館と博物館がつながり、行き来できるデザイン設計は素晴らしい。
・ファミリー層の場合、親（大人）が美術館・博物館へ行っている間、小さな子どもを遊ばせながら待てる場があると助かる。年齢別や目玉となるような巨大な遊具であったり、テイクアウトもできるカフェ、日陰ベンチスペース、ランニングコース、おむつ替え台とキッズ用もあるトイレなどがあると利便性が高い。
・近年ペットブームなので、ドッグラン等も備えてあると喜ばれると思う。
・公園や広場がすぐにテントだらけになったりする。限られた空間にカラフルテントばかりだと、せっかくのデザインが台無しになるので避けた方がよい。

**その他**
磯村委員
・親の興味によって左右される文化芸術の鑑賞の機会。学校教育の中にもっと入っていけないものだろうか。子どものころからゆるやかでおおらかな鑑賞の感覚を伝えていければ、鑑賞者が増え、鑑賞者の中から表現者も増えていくと感じる。そうなれば、豊田の文化芸術はもっと豊かなものになるのではないか。
鈴木委員
・学校の教育活動の中で利用してくことを考えると、バスでの送迎があるか、学習内容と関連付けられているか、児童・生徒の興味を引く企画かということもポイントになる。小中学生のころから文化に親しみ、大人になったとき、気軽に足を運び楽しむことができる、そんな文化ゾーンになると素敵だと思う。

事務局：次回開催は令和５年２月頃を予定。

以上